

平成 26 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

昭和 42 年から続けているこの事業は今までに、73,082,790 台の自転車を点検しました。

(一財)自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会(日商連)と日商連傘下の都道府県自転車商協同組合の協力を得て、日常使用している自転車の点検・整備の促進を図るため、全国 44 都道府県において自転車の点検事業と講習会を実施しました。

「拠点型安全点検」は学校、公園、街頭等で、「店舗型安全点検」は日商連傘下組合員の自転車店で、「安全点検講習会」は学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等が参画する催事会場で、それぞれ実施しました。

平成 26 年度においては、日頃使用されている自転車 432,660 台を点検し、講習会は 433 会場で実施しました。

拠点型安全点検は 3,002 会場において、397,084 台を点検しました。

【実施場所の内訳】

会場数	小学校	中学校	高校	公共施設	公園/街頭	その他
3,002	1,292	914	261	134	234	167

通学用自転車が点検の大部分を占める拠点型は生徒の減少と学校の統廃合により点検台数と会場数は減少していますが、整備された自転車の安全や快適利用につながる啓発活動への使命感で日商連傘下組合員は毎年継続実施しています。要整備箇所に含まれる内容には、ベルの取り付けが緩いとかタイヤの空気圧不足など見過ごしてしまうものも含まれています。

【総点検台数における要整備個所の割合】

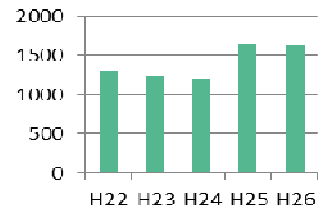
総点検台数	ブレーキ	チェーン	ベル	車輪 タイヤ含む	ライト	リフレクタ 尾灯	ハンドル	錠	その他
397,084	8.1%	5.8%	5.5%	4.7%	2.6%	2.1%	1.1%	1.1%	3.4%

店舗型安全点検は 1,623 店舗において、35,576 台を点検しました。

自転車利用者は自転車の点検整備に努めなければならないとの条例が施行されている地域もあり、条例に沿った対応をするために、積極的に取り組む店舗が増えています。

滋賀県では同時期に 2 つの支部が広域的に実施したり、夏休み期間中に実施したりしたことで、告知記事が新聞に掲載されました。

【店舗数の推移】



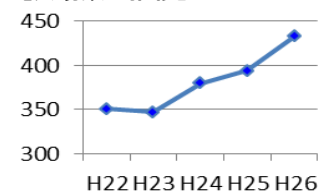
安全点検講習会は 433 会場において、42,918 人の参加がありました。

自転車の点検整備及び乗用のルール・マナーの向上 という社会的要請により、参加人数は微増ですが会場数は増えています。

【連携先の内訳】

会場数 合計	自治体	町内会	学校	警察	サイクリング	その他
433	71	10	243	78	8	23

【会場数の推移】



【拠点型安全点検】



【店舗型安全点検】



【安全点検講習会】



《実施組合(都道府県自転車商協同組合)の所見》概略・抜粋

拠点型安全点検

生徒の少ない学校も多く、点検台数は減ってきている。学校・PTA・警察・安全協会など多くの協力で終えることができた。
ベルが破損していても取り替えることなく乗車している利用者が多く、タイヤの空気の少ない自転車も多く見受けられた。
各会場とも沢山の参加者がおり、安全点検の重要性を周知し、交通安全に寄与する大変有意義な機会である。今後とも継続して実施して欲しいとの要望が多数ありました。
昨年と同様、自転車点検事業は自転車を安全に乗るための啓発として非常に良い事ではあるが、不良箇所が確実に整備されているのかという事がこれからの課題である。
本年も学校、育友会、地域の皆様のご協力もあり、無事安全点検は終了しました。過疎地では、子供の数も少なく集まりの悪い会場もあったようです。「安全点検カード」で要整備と記入しておいても、なかなか修理に来てもらえないのも現状です。昨年同様、TSマークの貼付では更新が依然として進んでいないようです。
小学生の自転車には防犯登録が貼っていない自転車もあったが、中学生以上は自転車通学の条件として防犯登録のない者は許可がおりないため、未登録の自転車はほぼない。有効期限切れもほぼない。学年が上がるにつれ、要整備車が目立つ。特にタイヤの摩耗、チェーンの伸び・錆、ベルが鳴らないなど、危険な状態の自転車が多い。点検カードを持って修理に行くように学校も呼びかけてくれる。今後は各自が一斉点検後に自転車店で整備修理を行い、TSマーク更新で安心安全に乗ってもらいたい。
毎年の恒例の事業となっているので全体的にスムーズに行えた。今回は島々からの依頼もあり、台数が少ない所への安全点検も行った。
要整備箇所の上位はブレーキ、チェーン、車輪でした。点検後の整備の重要性を広め、自転車利用者に整備を促すことが大切であり、課題でもあります。
この地域では雪解けを待って自転車通学が解禁になる学校が大半である。その時期に点検し、毎年安全な自転車に乗るという意識が広まってきていると思われる。
本事業に賛同された学校、公共団体等からの要請を受け、自転車点検を実施したうえで、その場で出来る調整、整備を実施しました。全体的に生徒数の減少により点検台数も少なかったようです。
要整備箇所については、ブレーキが顕著であった。
以前よりも要整備車が少なくなっているように思える。自転車点検後、講習会を開き、自転車の安全な乗り方等指導している。
今年度の要整備車の割合は昨年度より高かったが、実施学校では自転車加害事故の賠償金の高額化などもあり、自転車安全点検の取り組みに対し、今までにない期待と真剣さが見受けられたとのことであった。また、学校以外での安全点検実施支部は1支部のみで、駅前及びスーパーでの実施であったが、特に高齢者の自転車について、優先的に実施し感謝されたとのことであった。また、防犯登録なしの自転車については法的義務であること、TSマークなしの自転車にあっては自転車事故加害者の現状を話したとのことであった。
新規購入した際にTSマークを貼付するが、更新が難しい。全体的に自転車は良好だった。
要整備車の割合は概ね例年同様であるが、防犯登録なしが大きく減少した。学校関係者との相互協力による成果であり、引き続き防犯登録及び整備点検の意識向上を図るものとする。
相変わらずブレーキの不良が多い。ライトの不良が減ったがオートライトの普及の影響かもしれない。タイヤの空気不足が多い。
前年と比較して、点検台数や実施場所は、ほぼ同じような内容となった。要整備車が多いため、地道ながら、実施依頼者に注意喚起をしていきたい。
ベル・ブザー・ブレーキに整備が必要な自転車が多かった。
まだ、TSマークの普及が少なく、補償額も増えたことでその必要性について指導した。
組合員は努力していますが、学校の担当者の異動があると点検を実施しない学校があります。生徒の自転車通学を考えて、県へも実施するよう要請しました。
この事業は組合の事業として定着しており、組合員の積極的な活動により学校関係者及び警察署、地区安全協会員の協力を得ながら、自転車の安全利用の促進ときめ細やかな指導に感謝されている。
点検と併せて、盗難防止等の呼びかけができた。支部員の高齢化により、実施できる会場数が少なくなってきた。
11月に実施した時は、日没が早いので、県からの指導内容「早め点灯4時からライト」に沿って、ライトとリフレクターを重視して点検を実施した。小学校での点検で、リフレクターをバックホークで留めてある場合、曲がっているのが多く、家庭での修理が可能なため、担任の先生に生徒への指導依頼をお願いした。通学用はチェーンがベルトの自転車がほとんどでしたが、チェーン車については可能な限り調整を済ませた。要整備箇所はベルが多い。ベルの品質規格化(素材改善)を望む。要整備車には点検カードを貼付。生徒に修理の周知・徹底を図った。警察官にも立ち会っていただき有意義な点検であった。
交通安全教室の最中に、当事業を実施している所が多いのですが、自転車点検時の作業を子供たちに見てもらい、自転車の事、点検の重要性を直接伝えることも大切ではないかと思います。
全県下において自転車の安全利用に対する教育が浸透し、事故の減少が目に見えてきたことで、組合事業が評価された。過疎地においても、実施してきた結果でもある。
条例により学校からの点検の要望が増加した。しかし、整備が必要な箇所があっても整備されないのが現状です。
本年も、組合各支部が一致協力して多大な成果が上がりました。
年々、実施会場数が減少傾向にある。学校の取り組み方にも地域差があるようだが、支部によっては組合員の店舗数も少なく、また、組合員が高齢のため、点検の実施も難しいようである。
今年も例年通り学校・公共団体と連携して自転車の点検を恙なく行うことが出来ました。台数としては昨年より少し少なかったが、整備良好車の割合が増えてきているので毎年の点検活動の結果かと思われます。
昨年度と比べて拠点型点検が激減した。雨による中止で日程の変更ができずに実施されなかった所が多かった事と、学校の統廃合により学校数が減少したことが原因と思われる。点検を実施しても、修理をせずにそのまま乗っている子供たちが多くは組合員からもよく聞か、やはり自転車事故が増加していることに保護者も関心を持ち、その上で安全点検にも力を入れていただきたい。修理も何もせずに学校行事の一環として終わってしまうことは非常に残念なことである。
実施した学校が少なくなり、会場数が減少しました。毎年恒例になっている学校もありますが、増加するには至りません。防犯登録のない自転車はほとんどありませんが、TSマークの期限切れが多かったようです。

児童数の減少等で学校の点検実施が難しい地域が増えてきている。今後は点検の実施会場も考慮し、幅広い層対象の点検実施が望ましい。また、点検後、自転車店で必ず修理実行に結び付けたいと考えている。
都市部の小中学校は自転車通学を禁じているためか、郡部等の小規模校の点検が多かった。高校生のハンドル改造について、学校に申し入れをした。
最近、自転車通学が減少している。通学用自転車の要整備個所については、中でも交通事故に直接関係のあるブレーキが一番多かった。また、夜間乗用に必要なライトにおいての要整備車は、0台でなければならないが、0台ではない。命を乗せる乗物、自分を守ることに関心を持って欲しいです。今後の指導項目とします。
学校の安全点検は毎年決まった所になってきている。1年に1回、定期的に行うので、その成果は大きい。街頭での点検ではなかなか人が集まってこない。交通安全のチラシなどを配りながら行うが、点検の重要性を理解してもらおうのは大変なことである。
安全点検を実施する支部が減少してきたように見受けられます。依頼を受けたら積極的に引き受けるよう説明したい。
安心・安全の意識は向上している。例年、通学自転車の点検において、防犯登録のない自転車が多く見られるので、学校には通学用自転車には必ず防犯登録がされている自転車を許可するようお願いをした。全体に新しい自転車を使用している。
組合には警察本部より春・秋の全国交通安全運動と自転車マナーアップ強化キャンペーンの一環として定期的な交通安全指導並びに地域安全運動への協力要請があり、各支部(地区)は主に所轄警察署からの協力依頼があり、自転車の安全点検整備・交通安全指導を重点に実施し、例年同様、計画数を大きく上回る実施会場数となった。
地域の方々と連携を取り、実施しました。来年度もまた、地域の方々、警察、学校などと連携を取り、自転車の安全対策に積極的に取り組みたいと思います。
実施会場数が計画より1会場少なくなりました。来年度は各支部に実施してもらえるよう説明をしていきたい。TSマークについては期限切れをなくし、継続してもらえるよう努力したい。
山間部などの小学校は生徒が減少したため、学校の廃校及び統廃合が行われ、そのため、通学の距離が長くなり一部の小学校では自転車通学をするようになった。今年度はそれらの小学校から実施要請を受けて、中高校よりも多くの点検をした。タイヤの不備は擦り切れて白い糸目が露出している物がほとんどであったので、安全乗用のために、学校に強く取り替える必要があることを説明し、同時に指導を要望した。
学校側が交通安全に力を入れているところは整備ができていますが、そうではない学校は要整備車が見つかったも修理をあまりしない。総点検台数の多くがTSマークを貼付していない。防犯登録も半部以上が貼付していない。昨今、自転車事故が多発しているため、より一層の指導が必要です。
安全点検は地域への貢献。可愛い子供たちの安全のためにという気持ちで各支部が熱心に実施しています。

店舗型安全点検

この事業を実施することで、お客様との信頼関係も保つことができた。今年度は実施店舗が少なかったため、来年度はもっと多くの店舗で実施していきたい。
全体的に空気の少ない状態の自転車を乗車している人が多い。多少の整備不良により乗りにくくてもそのまま使用していて、乗車できなくなってから修理しに自転車店に来店する使用者が多い。
本年度、初めて店舗型に取り組みました。お客様から安全点検を依頼されることは少なく、パンク修理、故障時等に「安全点検」をお勧めし、実施しました。
TSマークのない自転車がまだ多い。量販店や通信販売などで購入した自転車に要整備車が多かった。タイヤの空気圧が低いものが大多数あり、月に一度は空気を補充する事を勧めた。防犯登録の有効期限について知らない方も結構多かったため、更新が必要であることを説明した。今回は無料点検週間のように行った支部もあり、これが恒例行事になれば認知度も増し点検台数も増えてくると思う。
ユーザーに直接点検整備についての説明ができるので、よい結果が出ます。整備店にとってもメリットがあり、良い事業であると思います。
全体的に整備良好車が増加してきている。TSマークの普及につながれば、もっと良い。
自転車の安全対策の向上を図るため、主に学校における各種催事の要請に協力し、自転車の正しい乗り方や交通ルール、マナー等を指導し、学校としても積極的に取り組む姿勢が見られました。
学生等はタイヤの空気不足で乗っているケースが多かった。また、のぼり旗で点検を知った方から喜ばれた。TSマークなしの方には、リーフレットを渡して周知した。
秋の全国交通安全運動が始まる前に、安心安全に自転車に乗ってもらえるように、自転車の点検を実施。自転車が大きく壊れたまま乗っている人はあまりいなかったが、タイヤの空気が抜けている状態で乗っている人が多かったようだ。
今年度は、2店舗で、「自転車安全点検実施」の新聞折り込みチラシを配る等の努力をしたそうであるが、客足は思ったほどではなかった。ただ、いずれも、点検のため来店した客でなくとも来客には積極的に安全点検を実施し、客に大変喜ばれ感謝されたとのことであった。
通学に使用している自転車は学校等でも点検があるためか、整備良好車が多いようです。タイヤの圧や摩耗が多く、適切な交換時期を過ぎている自転車が多数。タイヤ交換をすると物によっては本体価格と同じになり、新車を購入した方が安くなるケースもあるためかもしれない。
この地域では条例で点検整備が義務化されたが、まだまだ一般ユーザーに安全の認識は浸透されていないのが現状と思われる。
今年度、初めて実施。整備が必要な自転車は少なかった。
ホームセンターでの購入の場合、ブレーキ、空気圧等の調整が出来ていない自転車が多いので点検をするように指導しました。また、TSの必要性も指導しました。
今年度は昨年度実施した支部での取り組みだった。どの店舗も点検を実施したことにより好評を得、特にブレーキの調整、チェーンの緩みを中心に実施した。TSマークなしの自転車が多数見られ、加入するようアドバイスをして加入されたケースもみられた。
自転車保険への関心が高まってきたのに対し、TSマークが付帯保険だという認識がない方が多かった。安全点検を受けていただいた方にTSマークの説明をし、知ってもらうのにより機会となったようです。
点検事業で「感謝と労いの言葉」を頂いた。
「安心して自転車に乗れる社会」への貢献事業として有効な組合活動であり、収益にもつながることで、継続されることを希望します。

積極的にユーザーに声掛けをして店舗型の安全点検を実施した。整備が必要な箇所をすぐに店で整備することができ、良かった。
昨年より多めの店舗型点検を実施することができました。ここ2年間は多数の店舗が事業に参加でき、自転車の点検の大事さを訴えることができ、大変有意義でした。今後もこの活動を推進していきたいと思ひます。
TSマーク貼付義務化の学校が多いため、新学期の時期は点検・整備が多い。12～13年ぐらい前は先生や保護者からTSマークについての問い合わせがあったものだが、インターネットの普及とメディア等でTSマークのことも随分告知されているので、問い合わせは少なくなった。認知度が随分アップしたと思う。毎日、乗っていればいたるところが傷んでくるのは当たり前だから、1年に1度ぐらいは自動車の車検と同じようにとらえて、専門家に見ていただくことは大事なことだと思う。
実施中ののぼり旗を見て偶然立ち寄る客も1割程度はあるものの、ほとんどが店舗の顧客か、近隣在所の方が来店される事が多いと思われる。結果的に定期点検の必要性を感じ取ってもらえる良い結果となっている。通りがかりの人々にも口コミで定期点検の必要性が浸透していくものと期待し、この事業を実施する必要性を感じている。
点検の実施内容をユーザーに知らせる事は、安全な自転車乗用という意識付けになると考えられるので、自転車店へきちんと指導し、事業を実施していきたいと考えています。
店頭に掲出したのぼり旗を見て来店されたお客様はその場では修理を断るが、後日来店というケースがあった。多くは修理依頼で来店されたお客様だった。点検されたお客様の再来店を期待したい。
お客様の少ない中、常連の方には理解され、来店いただきましたが、忙しいからとか、体よく断られる方もいる。全体的に、完全に整備された自転車乗用者が少ないことは非常に残念であり、TSマークに結び付かないことも残念です。
気軽に点検のために立ち寄ってもらうよう、各組合員が苦勞したようだが、自転車屋さんのしっかりとした点検にユーザーから点検を受けて良かったとの声が聞かれた。これを期に定期的な点検整備をするユーザーが増えると良いと思う。ブレーキ・チェーン等の不具合が多く見られた。この点検事業を利用し、安全な自転車の利用を望む。
組合員において、店舗型点検を実施して2年目になりました。25年度より店舗数も少し多くなり、実施回数も増加しました。しかし、のぼり旗を見て来店される利用者はほとんどなく、修理で来店された利用者には点検の必要性を説明して実施することが多かった。今後は利用者との会話ができて、説明ができる店舗型を増やしていきたい。
組合員の高齢化、店舗廃業や病気休業等により、実施店舗数が大幅な減少となった。修理のため来店した客に対して点検を勧める場合がほとんどで、のぼり旗を掲出していても、点検を目的に来店するユーザーは少ないとの声が多かった。点検した自転車は、相変わらずタイヤの空気圧不足、ブレーキの不良、チェーンのたるみ等が目立つため、日常の点検・整備の重要性について自転車乗用車の認識を深めることが必要であり、今後も各店舗での丁寧な説明と安全点検の地道で継続的な実施が望まれる。それにより利用者の安全への認識の高揚を図る効果も一層高まるものと期待される。
組合員の高齢化に伴い点検事業が難しくなっている状況の中で、昨年度よりも総点検台数、実施店舗数が増えました。来年度も更に積極的に取り組みたいと思ひます。
各店舗では、普通に行っている点検整備だと思ひのですが、伝票や報告書となるとなかなか事業に参加する店舗が少なくなってしまう。販売の面では、量販店にかなり押されている昨今、少しでもお客様に来ていただく手段の一つとして分かり易いのぼり旗を立てて、声を掛ける機会になるとの意識をもって参加、実施してもらえればと思ひています。
組合員の高齢化に伴い点検事業が難しくなっている状況の中で、昨年度よりも総点検台数、実施店舗数が増えました。来年度も更に積極的に取り組みたいと思ひます。

安全点検講習会

今年は昨年の3倍の会場で行うことができた。学校を中心に自転車の安全な乗り方や点検整備の重要性、交通ルールについて実技指導を行いながら講習した。
自転車を安全に乗るために点検の重要性を周知できた。また、修理する必要がある自転車には点検カードを渡し説明したので、専門店に来店し点検整備する自転車利用者の増加を期待する。
自転車乗車時の交通ルールを周知徹底し、マナーを守って安全運転に心がけるよう。また、小学生にはヘルメットの重要性を高年齢者には無理な横断等しないで皆の手本になる安全運転を呼びかけました。
おはようサイクリング自転車安全教室では、幅広い年齢層に自転車の正しい乗り方、走行前の点検等注意点を中心に指導、TSマークの賠償補償限度額の変更について説明した。小学生には、交通ルール・正しい乗り方等について指導した。
冊子やリーフレットを配り、参加している方に合わせた内容で講習会を実施した。小さいお子さんや保護者の方は、今後自転車を利用する頻度が上がると思われるため、点検の重要性やTSマーク付帯保険の有効性を説明した。今後も安全利用を伝えていきたいと思う。
交通安全協会の協力のもと、小学校を中心に実施しました。小学生に分かりやすい説明を心がけました。自転車の乗り方や交通ルール、そして整備の大切さについて知ってもらうために、今後も取り組んでいく予定です。
毎年、行っている会場が多い。そういう地域の人たちは安全意識が向上しているが、もっと他の地域に広め、事故防止になると良い。
各学校、地元警察の方々との協力体制のもと、交通安全講習会を開催できた。また、全国の交通安全運動期間にも実施させてもらったことは、参加者増加にもつながった。
自転車事故が多いので、学校で講習会を開く所が増えている。一方で、担当の先生が変わると、今まで講習会を開いていた学校でも止めてしまう。
最初に、警察官、教員または交通安全協会役員である自転車組合の組合員による交通安全講和を実施、次いで、組合員による自転車安全点検を実施、最後に周辺道路へ出た実技指導を実施し講習会を終了した。学校側としても、最近の自転車事故の加害者に対する賠償額の高額化は十分承知しており、この様な講習会に対し、実施学校の教職員は大変感謝していたとのことである。
今や自転車の事故は被害者に留まらず、重大な責任を負う加害者ともなる時代である。「安全点検講習会」の実施により、点検整備及び講習を通じ、自転車事故防止に関する意識向上の成果を得られたと共に、本事業の継続により更なる成果を期待できる。会場数が昨年より増えたのは、条例で点検整備が義務化された影響と思われる。支部の人数の減少により事業の実施が年々困難になりつつある。
組合員参加のもと、警察署の方からは「交通安全講和」を、交通安全指導員の方からは「正しい自転車の乗り方」についてのお話と、横断歩道での歩行練習、自転車走行練習を実施していただいた。講習会に参加した児童(生徒)からは安全な自転車の乗り方が分かり、交通事故防止の意識が高まったという感想があった。

交通ルールを守って走行するよう、ヘルメットの着用、横断歩道の渡り方、TSマーク貼付の必要性を指導しました。
昨年と同じ会場で実施した。警察署及び交番警察官を交え、学校側(指導教諭・PTA代表・生徒会代表)と支部自転車組合員も加わり、自転車の正しい乗り方、悪い乗り方の事例も交え、最近の交通ルールの改正と罰則などの講話を行った。
自転車に乗るときの交通ルール、マナーを守ることの大切さを学び、理解してもらうことができた。
安全・安心・快適に乗用するため、交通ルール・マナーの厳守と日常の点検整備について実技指導した。小学校時代に講習を受けた中学生に点検を励行しているか聞いたところ、していない返答があり、再度反復指導した。自転車事故について警察より説明。代表の生徒に運転技術指導を実施、成果を感じた。
交通安全協会及び県の教育庁の指導主事、地域交通安全母の会会員、交通指導員、自治体地方職員などに自転車の構造機能と正しい日常点検について冊子を提供し、それに基づいて講義した。
自転車の安全な乗り方、交通マナー等の指導の他、自転車の点検も実施した。親子とも安全に対する意識が強まった。
自転車の交通安全に関心を持つ学校・団体が増加している。点検と講習をセットで実施している所が多い。調整して講習の会場数を増やしたい。
学校単位で毎年講習会を実施している地域では、恒例行事として定着しているようだ。中学校ではパネル等を使用し、屋内での座学形式で講習している。小学校では実際に自転車を使用して乗り方や交通ルールの指導を行っており、評判がよいようだ。
全部の学校で低学年と高学年とに分けて異なるテーマで指導する必要がありました。警察から自転車に乗るのは4年生からとの要請があり、高学年には自転車に乗る練習を中心に指導、低学年には交通ルールを中心に指導しました。毎年、警察、安全協会と共に地域の学校の生徒へ自転車に乗るための安全指導を実施し、地域に貢献することができています。
座学による講話、自転車の安全な乗り方等、実技を取り入れた講習会であった。組合からは理事長が講師として出動し、自転車の構造機能と点検整備について、TSマーク等の説明を交えながら行った。基本走行は勿論だが、危険な乗り方についても二人乗りや片手運転等で実際に体験した。自転車は身近にある手軽な乗り物だがルールやマナーを守らないと加害者にもなるという事を再認識し、今後、職場や地域で講習内容が十分に生かされることを願う。
自転車点検の前に講習会を実施。
自転車通学禁止の学校ではあるが、地区交通安全協会と一体となり、児童の交通安全に努めていることから、児童の交通事故減少に効果を得ていると思う。
小学校の講習会に関しては子供たちが熱心に見聞きして、話をしてもすぐ実行に移してくれるが、中学生になると恥ずかしがって、遠巻きとなりやすい。実際に道路に出てルールを守りながら、走行すると今迄の無謀を振り返り怖いと言う。今後、気を付けて自転車乗用してくれることを望みます。
昨年より、自転車に対する取り締まりが厳しくなったが、依然、自転車利用者の交通ルールが守られていない状況の中、安全点検、講習の必要性と共に、正しい自転車の乗り方の指導も重要視される。各支部へ取り組みを進めることとしたい。
主に高齢者や子供を対象とした交通安全教育行事等と連携して、自転車の正しい乗り方と点検・整備について実演・実技による分かり易い講習を実施し、自転車利用者の安全意識の向上と点検・整備の励行の重要性についての認識を深めることができた。今後も自治体・学校・警察等との連携により定期的に講習会を実施し、自転車の安全利用の推進に努めたい。
自転車のマナーアップ教室を開催することで、自転車の安全対策へ少しでも繋げることができたのではないかと思われる。
実施地区の小学校は自転車の安全に対する意識が高く、学校の校庭や近くの道路を使い、安全点検に合わせて乗り方教室を実施しています。子供たちも一生懸命、真剣に参加しているそうです。

以 上